

記録に残された「安土山図屏風」

滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課 松下 浩

1. 「安土山図屏風」とは？

- ・織田信長が安土城と城下町を描かせた屏風
- ・宣教師アレッサンドロ・ヴァリニャーノに贈る。
- ・天正遣欧使節によってローマ教皇グレゴリウス13世に贈られる。
- ・バチカン宮殿「地図の画廊」に飾られるが、その後行方不明に。現在も所在不明。
- ・屏風の実像については不明～形態・法量・構図

2. 屏風の作者

史料1「お湯殿の上の日記」

～天皇に近侍する女官たちが記した当番日記。

(天正8年8月)

十三日。(中略) あづちのてい(安土の邸) かきけん七郎にひやうふ(屏風)にかゝせて。

のふなか(信長) けさんに入る。

十四日、昨日のひやうふ(屏風)に。ちよくしよ(勅書)をと申まゝ。あくひつ(悪筆)をそめ(染め)いたす。

- ・屏風が天皇に見せられた。
- ・「かきけん七郎」～狩野松栄(源七) または狩野永徳(源四郎)
- ・安土城天主の障壁画は狩野永徳

3. 制作の様子

史料2 フロイス「日本史」

～イエズス会の宣教師ルイス・フロイスが記したイエズス会布教史

一年前に信長が作(らせ)た、屏風と称せられ、富裕な日本人たちが、(独自の)方法で用いる飾り付けの布(?)である。それは金色で、彼らの間できわめて愛好される(風物)が描かれている。彼はそれを日本でもっとも優れた職人に作らせた。その中に、城を配したこの市を、その地形、湖、邸、城、街路、橋梁、その他万事、実物どおりに寸分違わぬように描くことを命じた。

- ・金色～金碧画 墨絵、水墨画ではない cf.洛中洛外図
- ・実物通り寸分違わぬように描かせた～写實的 資料的価値が高い

4. ローマへ贈られる

史料3 ドゥアルテ・デ・サンデ「天正遣欧使節記」

～アレッサンドロ・ヴァリニャーノが使節の日記などをもとに編さんした記録。

わが国から持参した若干の贈物を敬意の徴として猊下に奉呈した。その贈物の中には巡察使のパドレさまに信長贈物とした絵画もあり、この絵画のうちには信長が築いた安土の非常に広大な城壁が描かれていた。(中略) 教皇猊下は安土の山が描かれているあの幾つかの画を、この見事な画廊に陳列するように命ぜられた。

- ・天正遣欧使節の献上品の中に「安土山図屏風」
- ・「画廊」に陳列。

5. 屏風の形状

史料4 ダニエルロ・バルトリ編「耶蘇会史」

～イタリアフェラーラ出身のイエズス会士ダニエルロ・バルトリが編さんしたイエズス会の歴史

そのうち、最も優れたるものは、かの地に於いて屏風と称する、二枚の家具にして、その一には安土山の新市、他の一には安土山の難攻不落の城を画きたるものなり、

全くかの国の風による、誠に精巧なる作品にして、現時画筆を動かすに最も巧みなる画工が、千度画き直して初めて完全に信長の満足を得るに至りしものなり、

この二枚の屏風はその壮麗なる陳列館に置かれたり、
大算術家イグナシオ・ダンテの地図の壁に掛けられたる

- ・「二枚」 二曲か一双か
 - ・一枚には城下町、一枚には安土城を描く
 - ・最高の画工に何度も描き直させて完成
 - ・イグナシオ・ダンテの地図の壁＝地図のギャラリー に掲示
- ※イグナシオ・ダンテ～ドメニコ会修道士。地図のギャラリーの装飾プロジェクトに参加

6. 屏風の法量

史料5 ウルバーノ・モンテ「年代記」

～ミラノの地理学者ウルバーノ・モンテの著作

教皇に贈ったものの中に、ナブナンガといわれる日本の首都を彩色した絵画がある。それは腕2本分〔約120センチメートル〕の高さで、長さは腕4本分である。

・高さ120cm×幅240cm

7. 屏風のスケッチ

史料6 フィリップ・ヴァン・ウィングのスケッチ（『古代の神々の図像』所載）

～ルーヴァン（現ベルギー）出身の考古学者フィリップ・ヴァン・ウィングが書き残した屏風のスケッチ。古代の神々の図像を集成したヴィンチェンツォ・カルターリの原著を、ロレンツォ・ピニョリーアが増補改訂した際に挿図として収録された。

先に名を記したフィリップ・ヴィンゴミオは日本人たちの諸神性に捧げられた断崖上の神殿群を描画したが、かれはそれを教皇グレゴリウス13世に贈るため日本人使節たちがもたらした書画の数々から写したものと語っている。（挿図の注釈）

- ・「安土山図屏風」に描かれた絵の唯一の手掛かり。
- ・城門？櫓？惣見寺？
- ・スケッチが本の挿絵になるまで～ヨーロッパにおける広範な東洋学者ネットワークの存在

史料7 ウィングの書簡（オルテリウス宛）

～1592年7月15日（13日）、フィリップ・ヴァン・ウィングが友人の地理学者オルテリウスに送った書簡。

今朝方、このギャラリーに入る権利が認められたのです。暑さによる大変な困難のなか手間をかけて、私はこのラティウムの地図を写したのですー立ち通しで、私としての最善を尽くしてー。これこそ、あなたが長い間求めていたものでした。そして、私は測定器具を使わずに、見たそのままに模写したのですが、あなたはいずれ、その出来映えが、誰かがコンパスを使って模写したものに引けを取らないものであることを認めることになるでしょう。少なくとも、コンパスを使って誰かが写していたらずっといい、などということはありません。私は、自分自身でこれを行ったのです。（竹本千鶴「安土山図屏風を描き遺したフランドル人」『日蘭学会会誌』34-1 2010年）

- ・ウィングは1592年8月にフィレンツェで死亡～屏風が画廊に存在した時期を特定 1592年7月までは存在

